

わたしの聖戦

◎◎女性が働くといふこと◎◎71

医学ジャーナリスト・医学博士 植田美津江

再び！血液型ブームの到来

周期的に訪れる流行に「血液型」がある。最近、またその大きなブームがやってきたらしい。

抗原の種類によってA・B・AB・Oの4つの型に分け、それに基づいて性格や将来予測などを行うもので、血液の分類法としては300種類にもものぼるといわれるが、一般にはABO式がもっとも良く知られ、もっとも親しみを持って活用されている。

ABO式のように、赤血球によってタイプを決める方法は、1900年になって普及し始めた分類法というから、他の占い、たとえば占星術や風

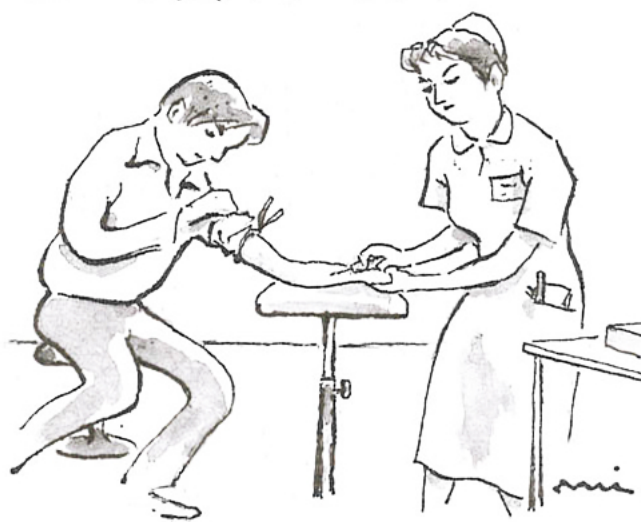
水などと比較すると、新しすぎるほど新しい。風水が綿密な統計学と呼ばれるのに比べると血液型占いは占いとしては単純で浅い印象がある。

人間は誰もが複雑な性格を持っている。ひとくちに几帳面だとかおらかだとか、または神経質だ楽天的だなどといったも、案外そうではない側面を併せ持っているのが普通であり、自分自身でも把握できないときもある。

血液型と性格の実際が違っていると、今度は両親の血液型を引っ張り出し、同じA型でも両親ともにA型の場合と、A・

Oの組み合わせの結果のA型とに分け、その違和感を納得させようとする。例えば、A型なのにおおざっぱな性格だと、親のどちらかがO型であれば「なるほど」と合点がいくというわけだ。随分勝手な解釈ではある。

一般にはABO式がもっとも良く知られ……



論が圧倒的に多い。血液型で物事を語るのは詐欺に近いとまで断言する学者も少なくない。一方で、世間では根強く信じられているのも確か。遊びとはいえ遊びかもしれないが、なかには血液型で社員の入社を決める社長も存在するとい

うから、社会的意義は軽視できない。

「B型の人とは絶対付き合わない」とか「男性はO型でない」と嫌と断言する女性も結構存在する。あるいは、誰かが「△型」だと分か

った途端、「やっぱりね」と納得したり。こうなると、血液型は単なる分類というより、相手がどんな人間なのかを判断する重要な指標として定着しているといふことになる。

一度、学生たちに「血液型を信じるか」と問う

たところ、なんと90%が「信じる」に手をあげた。さらに、他の占いについて訪ねると、これまたほとんどが「信じない」という答え。いったいこの偏りと血液型への強い信頼はどういうことか。

血液型に限らず、当たらないことが多いのを充分承知していながらも占いは人気があり、繰り返しブームがやってくる。半信半疑でありながら、その解釈に耳を傾け、自分を納得させ、楽しんで喜んだりしているのがわかる。

ネットやメールやゲームなどに代表される利便性の高い機器やあふれるモノに囲まれながら、非科学的で根拠の乏しい指標にすがらなければ他人と関わる事ができないとしたら、現代人はちょっと悲しく、同時にその人間くささに少しだけホッとした感情を覚えてしまおう。

イラスト・三浦義雄